



# 第10回国際 冬期道路会議に参加して

## 1. はじめに

さる平成10年3月16日～19日の4日間にわたり、スウェーデン国ルレオ市において、「第10回 PIARC 国際冬期道路会議」が、41 カ国から約950人の参加のもと開催された。

この会議は、PIARC（世界道路協会）の活動の一環として実施されているもので、1929年に第1回会議がドイツのベルヒテスガーデンで開催されたのを皮切りに、4年に1度定期的に開催されてきたものである。会議は、積雪期の道路の維持管理、交通安全をテーマに行われるもので、世界で最大規模の会議である。

昨年秋にスイスで開催された PIARC 実行委員会では、2002年の第11回会議を日本で開催することが決定され、さらに開催する都市として「札幌市」とすることが決められた。今回のルレオ会議を含め、すべてがヨーロッパの都市で開催されてきたこの会議が、はじめて他地域で開催されるものである。

このような背景もあり、今回の会議にあたっては、日本から建設省の橋本技監をはじめ日本道路協会の萩原会長など、100名にも及ぶ多くの方が参加した。

札幌市からも、魚住助役をはじめ筆者らが参加し、次期開催都市として、PR活動や、日本ブースの展示、各国からの会議参加者への説明などを行った。



札幌市建設局道路維持部  
雪計画課長

川端 隆

## 2. 会議の概要

今回の会議が行われたルレオ市は、ノルボッテン州の州都で、人口が約7万人の都市である。位置的には、首都ストックホルムの北に空路で約1時間半、北緯65度でほぼ北極圏に位置する工業都市である。ルレオ市の面するバルト海は、冬期間厚い氷に覆われ、島々や隣国フィンランドへの重要な交通路として機能することである（残念ながら、筆者は、今回の会議で設定された氷上道路の見学ツアーに参加することはできなかった）。

会議の会場となったのは、ルレオ市郊外の「アルカ

スホール」という、スポーツや文化的催し、会議、展示会などを開催できる総合的なホールである。

実質的な会議は、このホールで3日間にわたって行われ、「学術セッション」、「ポスターセッション」、「屋内、屋外展示」に分けて実施された。

今回の学術・ポスターセッションの議題は、次の5項目に設定された。

- ①冬期の道路管理政策
- ②雪氷対策管理方法
- ③都市地域における冬期の道路問題
- ④冬期道路管理のための維持、情報その他のサポート対策
- ⑤人と車と道の関わり

セッションの詳細な報告については、建設省を始め、関係諸氏が行っているのが割愛するが、ここでは、会議の開催期間中、展示会場に設営された「日本展示ブース」について報告する。このブースでは、以下のテーマについて、パネル・VTR・模型などを駆使した紹介を行った。

- ①日本の気候・暮らし・文化：  
雪と調和した日本独特の工芸や文化の紹介
- ②環境・省エネルギー：



「アルカスホール」見本市会場



見本市の日本ブース

環境や省エネルギーに着目した雪対策技術の紹介

③効率化・高度化：

除雪機械の効率化・高度化の取り組みと流雪溝、ロードヒーティングの効率運用の紹介

④情報通信技術の活用：

冬期道路情報システムの紹介

⑤安全・快適：

冬道走行の安全や快適性を高めるための最近の日本における技術開発の紹介

この中で札幌市からは、会議期間中にブース内で定期的に行われたデモンストレーションにおいて、現在まで進めてきた「融雪槽」「流雪溝」「ロードヒーティング」などの雪処理技術の紹介や、除雪作業の支援に役立っている「降雪情報システム」など、冬期間の道路管理技術について紹介する機会を得、世界に向け情報発信することができたものと考えている。

さらに、ブース内では、和服姿の女性が常駐し、各国の方々に、玩具・茶菓などを通じた日本の古典的な文化・芸能の紹介につとめ、2002年の会議開催に向け、積極的なPR活動を行うことができたと考えている。

### 3. 2002年札幌会議に向けて

札幌市は、年間平均降雪量が5mにも及ぶ都市でありながら、その中で180万人もの市民が暮らし、また北海道の中心都市として各種の経済活動を行っている。

このため、冬期間の安定した市民生活を維持するた

め、種々の道路問題を抱えているのも反面的な事実であり、この解決がわれわれ雪問題に携わるものの宿命ともなっている。

この意味においても、2002年の次期会議の開催は大きな意義を持つものと考えている。

すなわち、会議が行われることによって、世界各国から参集する技術情報に直接的に接することができるとともに、札幌市が現在まで取り組んできた様々な技術について提供する絶好の機会であり、この技術交流を通じ、さらなる冬期間の市民生活向上への一助となることが可能になると期待されるのである。

このような意味から、筆者も、PIARC国内委員会のもと、2002年札幌会議の成功に向け微力を尽くしたいと考えている。



札幌市魚住助役の挨拶